



# 日本製薬医学会ニュース No. 6 2010年7月

JAPhMed Mail News No.6 -2010 July-

## ■Headline =====

- ・ <<巻頭言>> 「第1 回日本製薬医学会年次大会」の御礼
- ・ 新入会員のお知らせ
- ・ 教育部会： 第3回製薬医学セミナー(7/24)のご案内
- ・ MA 部会： 第1回製薬医学会年次大会レポート
- ・ 関西部会： 5 月研修会のご報告
- ・ PMS 部会： 4 月研修会のご報告&第37回トキシコロジー学会報告
- ・ 広報委員会よりご連絡
- ・ イベントカレンダー
- ・ 【新刊】「奇跡は起こせる わが子を救うため、新薬開発に挑戦したビジネスマン」
- ・ 会員アンケート結果

## ■Headline =====

### Message from the Chairperson

Report: 2<sup>nd</sup> Pharmaceutical Medicine Seminar, Announcement of next seminar

MA Committee: Report Annual meeting

Kansai Committee: Kansai Report

PMS Committee: PMS seminar report & Joint Symposium in the 37<sup>th</sup> JSOT

Publicity committee: Information

Upcoming Events (ICPM2010, ASPE&JSPE)

Result of the survey of JAPhMed members

## <<巻頭言>>

### 「第1 回日本製薬医学会年次大会」の御礼

日本製薬医学会

会員各位

2010年5月14-15日開催の第一回日本製薬医学会年次総会には130名を超える多くの方にご出席いただき、まことにありがとうございました。

会員各位の皆様にとって情報共有ならびに新たな知識を得る場として有益な機会となりましたら幸甚に存じ上げます。

多くの方のご尽力により、本総会を開催することができましたこと、心より感謝申し上げます。尚、第二回は慶應義塾大学医学部クリニカルリサーチセンター教授の佐藤裕史先生を大会長として東京にて2011年5月に開催予定です。よろしく願い申し上げます。

製薬医学会理事長 今村恭子



〈左上：近藤達也先生、右上：役員会メンバー、下：総会の模様〉

〈Upper left: Dr. Tatsuya Kondo from PMDA, Upper Right: Board members〉

Photo: Dr. Yao from Ohtsuka

## From Chairperson

Dear JAPhMed members,

I hope that all of you will find the latest JAPhMed newsletters to be informative and enjoyable.

We would be grateful if the Newsletter could be helpful as in-depth information on Pharmaceutical Medicine.

The 1<sup>st</sup> Annual meeting of JAPhMed was successfully ended in mid May with over 130 participants. I appreciate your great contributions and am happy that we were able to provide a great opportunity to share the information and new knowledge about pharmaceutical medicine. I would like to express my gratitude to all of the contributors to our activities.

The next Annual meeting is scheduled in May 2011 in Tokyo and will be organized by Dr. Yuji Sato from the Clinical research center of Keio University.

### 〈総会発表資料の掲載のお知らせ〉

総会で発表した資料につきましては、ファイルキャビネットに掲載してあります。よろしく申し上げます。各自ダウンロードの上、ご利用ください。

The slides shown at the Annual meeting are available only to JAPhMed members. Please log in to our members' site for downloading.

---

## ■新入会員のお知らせ

### New Members' profile was updated

一般財団法人日本製薬医学会は、昨年1年間で30名、さらに 2010 年1～6月末までに17名の方が入会されました。総会ご参加をきっかけに機構の先生にも加入していただいております。会員の先生方のまわりに、まだ日本製薬医学会へ未入会の先生がいらっしゃいましたら、ぜひ紹介下さい。

なお、新入会員の自己紹介はメンバー専用のコーナーにて掲載しております(nonMD 会員の方には閲覧不可能となっております)

We are delighted to inform you that we welcomed 30 new members last year, and 17 new members joined to JAPhMed this year by the end of June as well, including Dr. Kondo and Dr. Maruyama, and Dr. Tateishi from PMDA. If you know any physicians working at pharmaceutical companies, regulatory agency and academia who have not become enrolled in JAPhMed, I hope that you will encourage them to join us. .

New members' profiles are available on the members' site ( MDs only).

---

## ■第3回製薬医学セミナーご案内

### 3<sup>rd</sup> Pharmaceutical Medicine Seminar

日本製薬医学会「7月研修会」(第3回製薬医学セミナー)のお知らせ  
(製薬医学医師認定医制度研修:12ポイント)

■日 時:2010/7/24 (土) 12:30 ~ 18:30

■場 所: アルカディア市ヶ谷 私学会館

■事前登録期限: 2010/07/22(木) 17:00 (申し込み、会費振込共に)

※「当日参加」も可能です。ご参加ご検討の程宜しくお願い致します。

今回は、下記の3題を話題提供頂きます。ディスカッションに十分な時間を取る予定です。皆さまのご参加をお待ちいたしております。

#### 【プログラム】

第一部:12:30 ~14:30

演者:高橋功 (株式会社ケアネット 代表取締役社長)

演題:診療におけるMRのバリュー -医薬情報の伝達はどうあるべきか?-

第二部:14:30~16:30

演者:寺岡章雄 (東京大学大学院薬学系研究科・医薬政策学講座)

演題:「未承認薬のコンパッションネートユースの制度化をめぐって」

第三部:16:30~18:30

演者:西島 和三(持田製薬株式会社 医薬開発本部 専任主事)

演題:「創薬プロセスの加速化および合理化:構造情報の有効活用を事例として」

■お申し込み(従来の「会員専用コーナー」より登録も利用可能)

[http://member.japhmed.jp/schedule/index.asp?patten\\_cd=28&page\\_no=15](http://member.japhmed.jp/schedule/index.asp?patten_cd=28&page_no=15)

参加費:¥10,000-

事前登録期限: 2010/07/22(木) 17:00 (申し込み、会費振込共に)

銀行振込期限: 7月22日(木)

The next Pharmaceutical Medicine Seminar will be held on the 24th July, 2010 in Tokyo. Three topics will be provided mainly focusing on the value of Medical Representatives in Japan, for launching compassionate use systems for unapproved drugs, the accelerations and streamlining in R&D Process, etc..

The deadline for registration is the 22<sup>nd</sup> of July 2010. Please visit and log in to our site for registration.,

[http://member.japhmed.jp/schedule/index.asp?patten\\_cd=28&page\\_no=15](http://member.japhmed.jp/schedule/index.asp?patten_cd=28&page_no=15)

---

## ■ MA 部会

### MA Committee

MA部会では、昨年10月に日本製薬医学会から発表した「臨床研究に関する提言」に対する反響を受け、引き続き年次大会でワークショップとして取り上げました。

招待演者の中山雅文先生には、医師主導の大規模臨床試験の実施経験をお話いただきました。研究の遂行と管理の両方を医師自らが担い、参加医師は無報酬だったが、成果はAHAでの口演発表と同時にJAMAに論文掲載となった、という発表で、優秀な医師の熱意が成功の鍵であることを印象づけました。しかしながら大半の医師は研究管理のノウハウを知りません。招待演者の小林史明先生は、日本医師会治験促進センターでの経験から、医師主導治験でいかに多くのサポートが必要であったかを紹介いただきました。慶應義塾大学クリニカルリサーチセンター教授の佐藤裕史先生は、大学においても臨床研究支援システムが徐々に整備されつつあることを説明されました。今村恭子理事長から提言発表後の各界における活動について紹介があった後に総合討論となりました。

会場からは、混合診療ではないかとの指摘や(今日では高度先進医療の制度ができましたが)、未承認薬・適応外薬はどうしたら良いか、等の質問が出ました。基本的には、承認された用法用量の範囲内で新たなエビデンスを構築するために臨床研究を行う意義は理解され、製薬会社としてサポートする為には提言内容が着実に実行されることが望ましい、と、まとめさせていただきました。

### Report: MA Committee

MA branch meeting picked up clinical research as a theme of panel discussion in the Annual meeting because of large number of responses from the relevant fields after release of the statement last October. Dr. Masafumi Nakayama talked about experience of physician-driven, large-scale clinical study, where the physician himself performed both implementation and management of the study. Simultaneous presentation at AHA and journal publication in JAMA indicated that physician's excellence and passion were the main key factors for success. However, most physicians do not know how to manage a study. Mr. Fumiaki Kobayashi introduced how much support he offered to the physician-initiated NDA trials at the Japan Medical Association Clinical Research Promotion Center. Then, Professor Yuji Sato of Keio University Clinical Research Center showed support system which has been gradually fixed at the university. Lastly, Dr. Kyoko Imamura, Chairman of the Board of Directors, presented the numerous activities of JAPhMed since last October.



Significance of performing clinical research in order to build up new evidence within the approved indication was well understood through subsequent general discussion with the audience. We reached agreement that statement on clinical research needs to be performed steadily in the case pharmaceutical company could support the study.

---

## ■関西部会5月研修会

### Report: Kansai Committee

2010年5月21日夕刻より、創業当時の面影が色濃く残る、塩野義製薬本社ビルにて、関西部会5月研修会を開催いたしました。講師は、塩野義製薬 創薬・探索研究所 医薬応用化学部門主幹研究員の皆川和之先生で、「創薬プロセス概論」と題してご講演頂きました。講演内容は、ご自身のご経験、業務内容も絡めて、創薬研究の進め方について体系的にお話頂きました。特に、創薬上流から全体像を俯瞰し、最新創薬技術を駆使したターゲット探索とバリデーション、リード化合物の探索や最適化などの流れに関して詳しく解説して頂きました。非常に活発な質疑応答の後、懇親会が行われ、そこでも創薬に関する討議が続きました。次回は7月28日に予定しています。

### Report: Kansai Committee

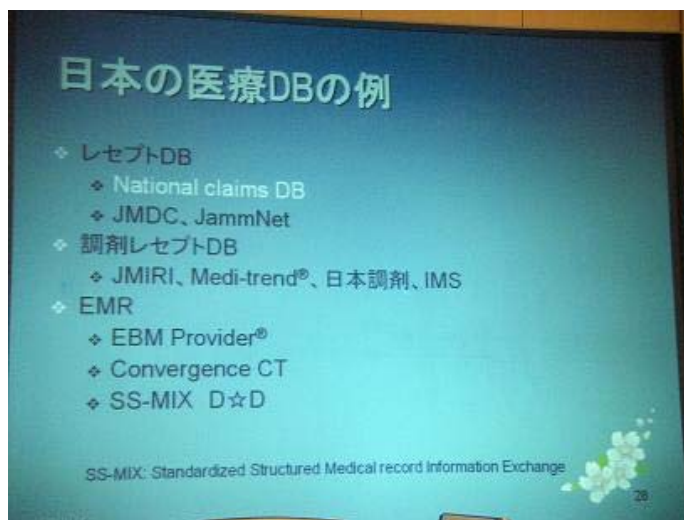
On Friday the 21<sup>st</sup> of May, the Kansai Committee Seminar was held at Shionogi & Co., Ltd. Office building. Dr Kazuyuki Minagawa from Shionogi gave a presentation titled “Introduction to Drug Discovery” based on his experiences followed by an active discussion with the attendees. Dr. Minagawa’s talk focused on target discovery and validation as well as lead compound discovery and optimization, providing an interesting new perspective for the attendees. The next seminar will be held on July of the 28<sup>th</sup>.

---

## ■PMS部会報告

### Report PMS committee

4月9日に関東と関西をビデオ会議で結び、PMS部会が開催されました。関西からはイーライリリー社の山本尚功様から製薬協での議論の方向性と疫学の立場から望ましい医薬品の安全性データベースの構築や運用などについて発表をいただきました。



質疑応答のあと、メルク万有の木村友美先生より日本製薬医学会において会員対象に行われた安全情

報アンケート調査の結果について発表をしていただき、市販後調査のあり方について熱心な討論がなされました。

さらにPV分科会より、ICH M3(第一相治験開始前に行わねばならない非臨床試験(安全性薬理試験、各種毒性試験など)の実施時期についてのガイドライン)の運用ならびに時期についての経緯を含めた解説があり、続いて毒性試験の時期について議論を行いました。

およそ4時間弱でしたが、関東と関西で合計20名以上が参加し、音声だけでなく、ビデオ会議方式を初めて用いることで、従来より一層深い議論ができました。

## Report PMS Committee

PMS committee was held simultaneously at Tokyo and Kansai through Skype on the 9<sup>th</sup> April. Over 20 attendees joined this meeting. From Kansai, Mr. Yamamoto from Eli Lilly Japan K.K. gave a presentation focusing on the use of Drug Safety Database from the view point of pharmacoepidemiology.

Subsequently, Dr. Kimura made a presentation of the results of the survey from JAPhMed members. The Japanese PMS scheme was actively discussed.

Finally, the PV committee members from JSOT provided short presentation about ICH M3 guide line. The meeting was closed fruitfully after active discussion.

## ■第 37 回トキシコロジー学会参加記録

### Report: Joint Symposium in the 37<sup>th</sup> JSOT(The Japanese Society of Toxicology)



Left: Dr. Kyoko Imamura and Barata・今村先生、茨田享子様(PV 分科会)

Middle: Dr. Stewart Geary and Dr. Tsukidate、ギリ先生と築館様(エーザイ社)

Right: Dr. M. Bracken from Abott Laboratories

沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターにて 6/16 に第 37 回日本トキシコロジー学会 学術年會が開催されました。去年に引き続き、日本製薬医学会とのジョイントシンポジウム『ファーマコビジランス／非臨床・臨床ジョイントディスカッションによるヒトでのリスク最小化へのチャレンジャーシステム構築へ向け一「非臨床／トキシコロジストは、安全性医師と連携して副作用データをどう読むか」が行われました。

日本製薬医学会より Stewart Geary 先生、今村恭子理事長が座長として参加し、非臨床部門からは安全性評価研究ファーマコビジランス分科会より茨田享子氏、築館一男氏とともに、日本製薬医学会会員でもある北里大学東病院治験管理センターの熊谷雄治先生が参加されており、熊谷先生からは Clinical approach for DILI; clarification of type of liver dysfunction と題された講演を頂き、治験の現場で判明した外来と入院によって生じた代謝による肝機能酵素の変動の差について教えていただきました。

また前臨床より Abbott Laboratories 社の William M. Bracken 氏から「A review of the concordance of toxicity of pharmaceuticals in humans and animals」と題して、アメリカで行われている取り組みとして、HESI (Health and Environmental Sciences Institute)で毒性情報集約を行い、薬物や毒物についての安全性情報の透明性を高め、科学的な検証が可能な仕組みを教えていただきました。

後半はアストラゼネカ社より「システムバイオロジーを用いた薬物性肝障害の原因究明アプローチ: キシメラトランを例に」と題して、海外で市販開始後に開発中断となった抗トロンビン薬の副作用を例に、ファーマコゲノミクス、プロテオミクス、ゲノム解析といった様々な手法を用いた科学的検証の結果について教えていただきました。

また日本たばこ社より「臨床及び非臨床における肝障害に起因しない血中トランスアミナーゼ活性の上昇について」と題して、国内の開発段階で生じた肝機能障害を取り上げ、アストラゼネカ社とは異なった手法による原因究明へのアプローチについてお話を頂ました。

これらの4つの発表の後、総合討論がなされ、会場に参加された非臨床のトキシコロジストの方々と日本製薬医学会のメンバーとともに活発な討議が行われました。今後の新薬開発のために、よりサイエンティストとしてこのような科学的な検証の場を持つことの重要性について認識を新たにし、次回の開催について期待する声があがりました。

次回の第38回日本トキシコロジー学会学術年会は2011年7月11-13日の日程で横浜のパシフィコ横浜にて開催予定です。日本製薬医学会会員の皆様もふるっての参加を期待しております。



## Joint Symposium in JSOT(The Japanese Society of Toxicology)

On Wednesday the 16<sup>th</sup> of June, at the 37th Annual meeting of the Japanese Society of Toxicology (JSOT), a joint symposium of JSOT/JAPhMed was held, featuring “Pharmacovigilance, the challenge for the risk minimization discussed by preclinical and clinical division on how the toxicologists analyze the adverse reaction through cooperation with safety physicians”. This symposium was chaired by Dr. Kyoko Imamura and Dr. Geary from JAPhMed.

The presentations consisted of 4 parts. Prof Yuji Kumagai of the Kitasato University gave the presentation on "Clinical approach for DILI; clarification of type of liver dysfunction". Dr. William M. Bracken from Abbott Laboratories gave the fantastic presentation on "A review of the concordance of toxicity of pharmaceuticals in humans and animals".

Two companies provided splendid presentation on the compounds which were withdrawn from development.

Finally, the discussion time was followed by active debate among the attendees. We confirmed the value of this symposium to share information for further safety of drug development.

Next year, the JSOT will be held in Yokohama from 11<sup>th</sup> to 13<sup>th</sup> of July 2011. Please join the next symposium.

---

### ■ 広報委員会 Publicity committee

#### 1. ホームページ委員会が、広報委員会へ改組となります

#### New committee on Public Information

日本製薬医学会の広報活動は主にホームページ委員会が主体となって活動し、機関紙である Newsletter の編集にあたる広報委員は各部会に所属しておりましたが、2010年6月より、両者を統合して、



「広報委員会」となりました。メンバーの退会もありましたので、改めてご紹介します。

メンバー：原先生(アステラス)、山中先生(バイエル)、倉垣先生(AZ)、今堀先生(アステラス)、矢尾先生(大塚)、細川先生(リリー)、井上(ファイザー)です。よろしくお願いします。

A. HP運営チーム：今堀先生、矢尾先生、山中先生

B. 編集チーム：原先生、倉垣先生、細川先生

C. 渉外チーム；井上、原先生

渉外、編集、ウェブと3チーム制に分かれています。また、広報委員会に参画いただける方を募集しております。もしも、ご関心がありましたら、事務局([japhmed@gmail.com](mailto:japhmed@gmail.com))までご連絡をお願いします。

We are happy to announce the renewal of our Committee on Public Information. Our organization has merged with legacy website committee and publicity committee since June 2010. Seven members are now assigned to 3 teams. There are still many issues remaining. Thus, continuously we would like to ask for your cooperation.

Best regards,

## 2.新しいロゴが完成

### New Logo of JAPhMed

学会として改組されて1年を記念し、日本製薬医学会のロゴを新しくいたしました。下記のとおりです。今後、アンケートの結果も加えて、ホームページのデザインや機能を改善していく予定です。



To gain recognition, new Logo was newly designed.

## 3. 提言集とパンフレットを作成、連載『今日の処方と明日の医学』が開始されました

### New Publication: Recommendation Brochure of JAPhMed were renewed.

☆昨年、日本製薬医学会が行った3回の提言をまとめた提言集を作成し、総会で配布しました。また財団法人として活動するにあたり必要なパンフレットも新しく作成しました。配布を希望する方は事務局までお問い合わせください。

New Brochure of JAPhMed is now available, please ask our office (e-mail: [japhmed@gmail.com](mailto:japhmed@gmail.com)) to send it to you.

☆医学書院の月刊誌『Medicina』誌にて『今日の処方と明日の医学』の連載が始まりました。原満良先生による第1回目の記事は『【重篤な副作用】って、どういう意味?』。今後、日本製薬医学会の企画により、



様々な形で現場の臨床医の先生に、製薬医学を知ってもらいきっかけを作っていく予定です。よろしくお願いいたします。

We are happy to announce the new project to write regularly for the magazine “Medicina” which is published by Igakushoin. Our project will cover topics from R&D to PMS including orphan drugs. Our aim is attention-getting from physicians who are working in clinical practice.

-----  
関連イベント

## Upcoming Events

### ■10th Kitazato-Harvard symposium

Date: October 12-14

Venue: Nikkei hall Otemachi Tokyo

<http://www.pharm.kitasato-u.ac.jp/biostat/symposium/index.html>

詳細については下記までお願いいたします。

E-mail: [biostat@pharm.kitasato-u.ac.jp](mailto:biostat@pharm.kitasato-u.ac.jp)

### ■ICPM 2010 in Beijing

#### 16<sup>th</sup> International conference on Pharmaceutical Medicine

Date: October 23-26 2010

Venue: China National Convention Center, CNCC

<http://www.icpm2010.org>

[http://japhmed.jp/whats\\_new/icpm2010.html](http://japhmed.jp/whats_new/icpm2010.html)

Deadline for Abstract Submission: 31, July, 2010

Deadline for Advanced Registration: 30, September, 2010

### ■ACPE & JSPE in Tokyo 16<sup>th</sup> JSPE and 5<sup>th</sup> ACPE joint meeting

Date: October 29-31 2010, Central Tokyo

Venue: IOI (a-i-o-i) Hall Aioi Insurance Shinjuku Building, Tokyo

Site: <http://acpe-japan.org/>

### ■第4回治験塾「院内事故調査のあり方—治験との関連を踏まえて」

【日時】平成22年7月3日（土曜日）午後2時～

【会費】5000円

【会場】東京芸術劇場 5階中会議室（豊島区池袋：地下鉄・JR池袋駅直通）

【地図】<http://www.geigeki.jp/access.html>

<http://members3.jcom.home.ne.jp/jaspertsuji/schedule.html>

### ■「第4回ヘルスアウトカムリサーチ支援事業（CSP-HOR）年会」

東京大学弥生講堂 一条ホール

<http://www.csp.or.jp/nenkai/info.html>

テーマ 「いよいよ始まる！医療データベースの研究利用と社会還元」

【日時】 2010年7月3日(土) 10:30~17:40(開場:10:00)

【会場】 東京大学弥生講堂 一条ホール <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html>

【会費】 一般・企業 ¥3,000 学生 ¥1,000 ※ご参加費は当日受付にて承ります。

## ■第2回東京大学メディカルキューブシンポジウム

～社会に開かれたトランスレーショナルリサーチの推進を目指して～

【日時】 2010年7月5日

【会場】 東京大学鉄門記念講堂 ([map](#))

お問合せ先事務局: 東京大学医学部附属病院 TR センター事務局(担当: 細野、吉田) TEL: 03-5800-9070

FAX: 03-5800-9071 E-mail: [trc@h.u-tokyo.ac.jp](mailto:trc@h.u-tokyo.ac.jp) まで

## ■第1回 J-CLEAR ワークショップ:「臨床試験成績の内的妥当性と外的妥当性を考える」

【日時】 2010年7月10日 10:00 ~ 16:00

【会場】 東京大学医学部附属病院 入院棟 A-15 大会議室

テーマ:「臨床試験成績の内的妥当性と外的妥当性を考える」 <http://j-clear.jp/kousyu.html>

主催: 臨床研究適正評価教育機構

定員: 50名(定員に達し次第締め切らせていただきます)

参加費: 3,000円

参加ご希望の方は、下記、参加申込書をダウンロードしてお申し込みください。 <http://j-clear.jp/kousyu.html>

## ■教育セミナー「臨床試験におけるクオリティマネジメントの考え方」

【日時】 2010年7月23日(金) 13:30~16:30(開場 12:30)

【会場】 東京大学医学部 臨床講堂 (東京都文京区本郷 7-3-1)

テーマ:『臨床試験におけるクオリティマネジメントの考え方』

定員: 200名

参加費: 正会員・学生会員・賛助会員 3,000円、非会員 6,000円

プログラム、参加申込の詳細は、こちらをご覧ください。

<http://www.j-sctr.org/seminar/index.html#100723>

お問合せ先 日本臨床試験研究会 事務局 TEL 03-5256-7475 FAX 03-5256-7480

## ■第29回 臨床薬理阿蘇九重カンファレンス

【日時】 2010年8月21日(土) 13:00 ~ 8月22日(日) 12:00

<http://aso29.m.ehime-u.ac.jp>

会長: 野元 正弘(愛媛大学大学院医学系研究科病態治療内科)

テーマ: 第1部「医療機器開発の現状と課題」 第2部「アカデミックCROの現状と課題」

会場: 利楽 <http://www.lesp.co.jp/riraku/index.htm> 〒791-0211 愛媛県東温市見奈良 1110

参加費: 10,000円(学生 3,000円) \*懇親会費および宿泊費は含まれておりません

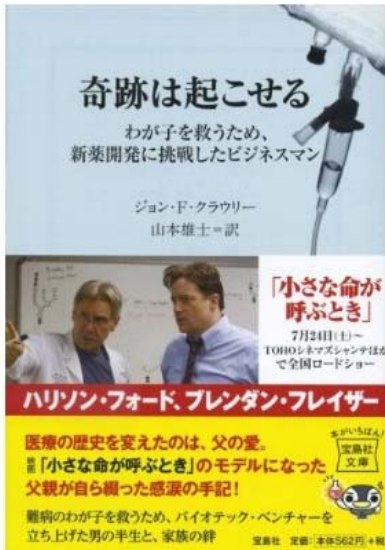
申し込み: 参加・懇親会・一般演題申し込みは当HPの申し込みフォームにてお申し込み下さい。

<http://aso29.m.ehime-u.ac.jp>

申し込み期限：平成 22 年 7 月 30 日（金）

お問合せ： 第 29 回臨床薬理阿蘇九重カンファレンス事務局 愛媛大学大学院医学系研究科病態治療内科  
〒791-0295 愛媛県東温市志津川 454 TEL：089-960-5095 FAX：089-960-5938

E-mail: [aso29@m.ehime-u.ac.jp](mailto:aso29@m.ehime-u.ac.jp)



【新刊】

「奇跡は起こせる わが子を救うため、新薬開発に挑戦したビジネスマン」  
(宝島社文庫)

ジョン・F・クラウリー (著), 山本 雄士 (翻訳)

7月24日公開のハリソン・フォード&ブレンダン・ブレイザー主演『小さな命が呼ぶとき』のモデル自身が明かす、感動の手記。4万人に1人しか発症しないといわれる「ポンペ病」=遺伝子の先天代謝異常であるこの病気には、薬がない。筋肉が衰え、成人するまでに死に至るといいう難病である。

ポンペ病と診断されたわが子2人を救うため、ジョン・F・クラウリーは知識もないままに医療界に飛び込んだ。新薬を開発するためにバイオテック・ベンチャーを起ち上げ、自らの力で奇跡を起こした男の半生と家族の絆を綴った感涙の物語。

日本製薬医学会の会員でもある山本先生が翻訳されました。7月6日発売です。

ISBN-10: 4796677844 発売日: 2010/7/6 <http://amzn.to/amXVRr>

<Editorより>

今回の総会は第一回目ということで、準備不足や多くの新入会員の先生方に手伝って頂きました。「サポート側に参加してよかった」「手作り感があった。」といったコメントも頂きました。本当にありがとうございました。また「近藤先生の「世界を軸とするPMDA～その改革と今後の展望～」の特別講演がよかった」など様々なコメントを頂き、今後の学会運営に役立てたいと存じ上げます。会員の皆様には感謝申し上げますとともに、今後とも日本製薬医学会の発展のために、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

/JAPhMed -Enhance Pharmaceutical Medicine- /

【事務局】

一般財団法人 日本製薬医学会 (JAPhMed) 事務局

<http://japhmed.jp> E-mail: [japhmed@gmail.com](mailto:japhmed@gmail.com)

ランスタッド株式会社

〒102-8578 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート21F

担当: 玉手、山川

Phone: 03-5275-1883 Fax : 03-5275-1878

## Homepage委員会 活動報告 Website committee Report May 2010

委員長: 井上雅博(ファイザー)

メンバー: 細川先生(リリー)、山中先生(バイエル)、越路先生(リリー)、原先生(アステラス)、Kyaw Min Oo先生

<広報委員>

MA部会: 向井先生(ヤンセン)、PMS部会: 倉垣先生(アストラゼネカ)、教育部会: 岩本先生(リリー)

## Homepage委員会 2009年度 活動報告

### 1. ウェブサイト改善

カレンダー開設、セキュリティ認証設置

### 2. 広報活動サポート

JAPhMed Mailnews掲載(昨年度3回発行)

### 3. 事務局 & 会員サポート

問い合わせ対応、新入会員プロフィール掲載、E-CLIN対応

### 4. アンケート実施



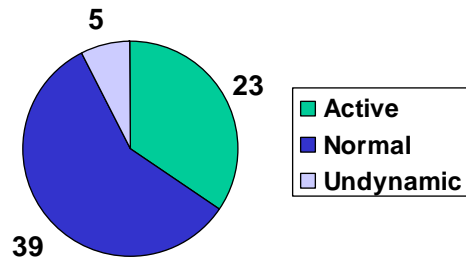


## アンケート結果-1

全会員247名中、68名回答(期間:2010/4/16-30)

Q1. 最近の日本製薬医学会の運営について感じている感想をお聞かせください。

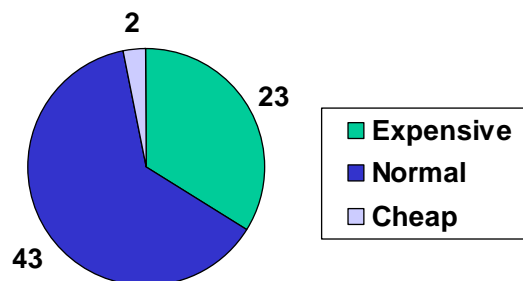
What do you think about the activities of JAPhMed?



## アンケート結果-2

Q2. 製薬医学会の年会費についていかがですか？

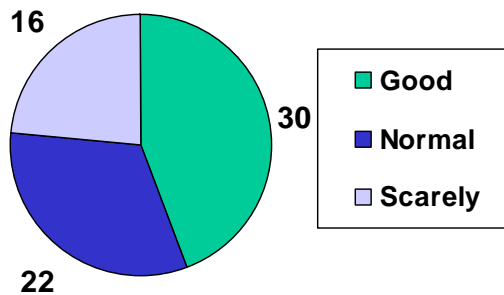
How do you think annual fee of JAPhMed



### アンケート結果-3

Q4. 今後、非医師にも日本製薬医学会への入会資格が与えられ  
ず、非医師会員が増えることについては？

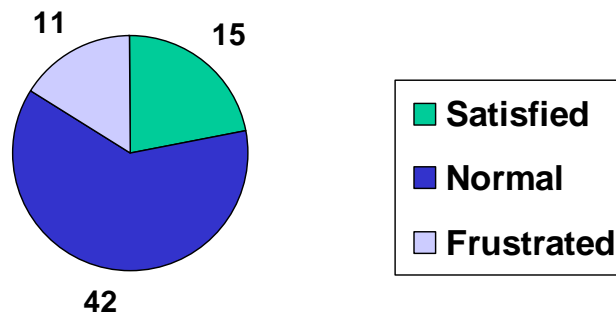
How do you think we are starting to accept non-MD members?



### アンケート結果-4

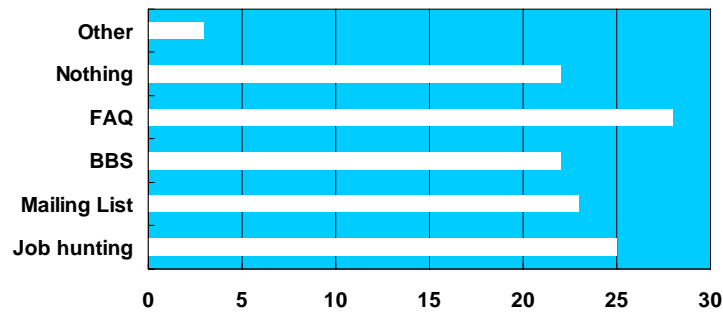
Q5. JAPhMedのホームページの運営についてお聞きします。情報  
量やホームページについていかがですか？

How do you think about JAPhMed website?



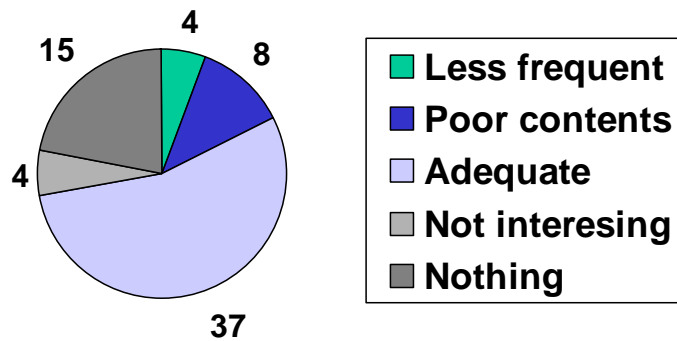
## アンケート結果-5

Q8. 今後、どのようなサービスなどが必要だと思いますか？  
Please let us know how you would like to add new service?



## アンケート結果-6

Q9. Mail Newsについて回数や内容はについていかがですか？  
How do you think about JAPhMed Mailnews?



## アンケート結果-7

Q. 10 あなたが製薬医学会に期待することは何ですか？  
What is your expectation on JAPhMed?

a. 学術活動 Academic activities	43票 ( 28.7% )
b. トレーニング Training	35票 ( 23.3% )
c. 提言活動 Statment based actions	35票 ( 23.3% )
d. 親睦活動 Social gathering	30票 ( 20.0% )
e. その他 Other	7票 ( 4.7% )

## Homepage委員会 2010年度活動計画

- **1. 広報委員会に改編**  
(広報活動と情報発信能力の強化、JAPhMed Mail News年3回発行→季刊発行へ)  
＜メンバー＞  
細川先生(リリー)、山中先生(バイエル)、越路先生(リリー)、原先生(アステラス)、Kyaw Min Oo先生、井上雅博(ファイザー)、向井先生(MA部会: ヤンセン)、倉垣先生(PMS部会: アストラゼネカ)、岩本先生(教育部会: リリー)
- **2. 会員間の情報共有促進**  
(ホームページの活用、FAQ、MLの開設を計画)
- **3. JAPhMedの活動サポート**



募集中

今後とも皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます  
広報部会